「『コミュニティで創る新しい 高齢社会のデザイン』 研究開発領域について」

平成22年度採択プロジェクト 一覧

| カテゴリー | 題名 | 研究代表者 | 所属•役職 | 分野 | コミュニティ | 期間 |
|-------|-----------------------------|-------|--|-------------|---|----|
| I | 在宅医療を推進する地域 診断標準ツールの開発 | 太田 秀樹 | 医療法人アスムス理事長 | 医療 | ·栃木県栃木市 ·茨城県結城市 | 3年 |
| I | 新たな高齢者の健康特性に 配慮した生活指標の開発 | 鈴木 隆雄 | 独立行政法人 国立長 寿医療研究センター 研究所長 | 評価尺度 | ·東京都板橋区 ·愛知県大府市 | 3年 |
| П | ICTを活用した生活支援型 コミュニティづくり | 小川 晃子 | 岩手県立大学 社会福祉学部·地域連 携本部 教授/副本部長 | ICT 生活支援 | ·盛岡市桜城地区 ·盛岡市松園地区 ·岩手県滝沢村 ·宮古市川井地区 | 3年 |
| П | セカンドライフの就労モデル 開発研究 | 辻 哲夫 | 東京大学 高齢社会総合研究機構 特任教授 | 就労 | ·千葉県柏市豊四 季台団地地域 | 3年 |

平成23年度採択プロジェクト 一覧

| カテゴリー | 題名 | 研究代表者 | 所属•役職 | 分野 | コミュニティ | 期間 |
|-------|---------------------------------------|--------|--|---------------------|-------------------------------|----|
| I | 社会資本の活性化を先導 する歩行圏コミュニティ づくり | 中林 美奈子 | 富山大学大学院 医学薬学研究部 准教授 | 機器導入 社会参加 | ・富山県富山市 | 3年 |
| I | 「仮設コミュニティ」で創る 新しい高齢社会のデザイン | 大方 潤一郎 | 東京大学大学院工学系 研究科 都市工学専攻 教授 | コミュニティ づくり 災害 | ·岩手県大槌町 ·岩手県釜石市 ·岩手県遠野市 | 3年 |
| п | 高齢者の虚弱化を予防し 健康余命を延伸する社会 システムの開発 | 新開 省二 | 地方独立行政法人 東京都健康長寿医療 センター研究所 研究部長 | 健康づくり | ·埼玉県鳩山町 ·群馬県草津町 ·兵庫県養父市 | 3年 |
| П | 高齢者の営農を支える 「らくらく農法」の開発 | 寺岡 伸悟 | 奈良女子大学 文学部 人文社会学科 准教授 | 就労 機器導入 | •奈良県下市町 栃原地区 | 3年 |
| п | 高齢者による使いやすさ 検証実践センターの開発 | 原田 悦子 | 筑波大学 人間系心理 学域 教授 | 機器開発 社会参加 | ・茨城県つくば市・山形県三川町 | 3年 |

領域総括/東京大学高齢社会総合研究機構 特任教授

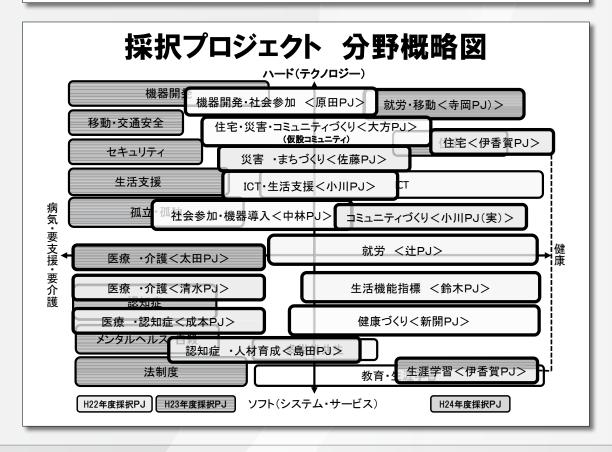
イリノイ大学で Ph. D(心理学)取得、米国の国立老化研究機構(National Institute on Aging)フェロー、ミシガン大学社会科学総合研究所研究教授、東京大学大学院人文社会系研究科教授(社会心理学)、日本学術会議副会長などを経て、2006 年東京大学高齢社会総合研究機構特任教授。

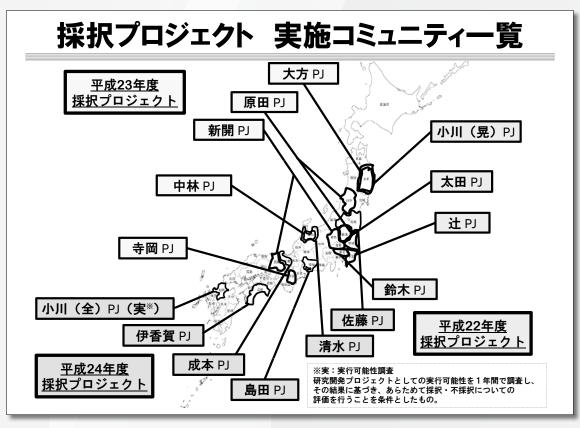
専門はジェロントロジー (老年学)。高齢者の心身の健康や経済、人間関係の加齢に伴う変化を20年にわたる全国高齢者調査で追跡研究。近年は超高齢社会のニーズに対応するまちづくりにも取り組むなど超高齢社会におけるよりよい生のあり方を追求している。

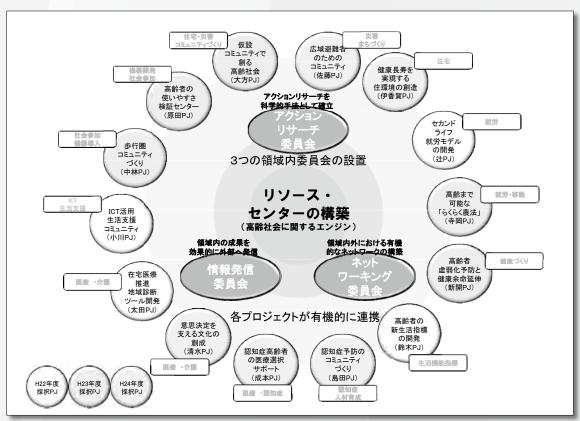


平成24年度採択プロジェクト 一覧

| | 題名 | 研究代表者 | 所属•役職 | 分野 | コミュニティ | 期間 |
|---|---|-------|---|-------------------------|------------------------------------|----|
| I | 高齢者ケアにおける意思決 定を支える文化の創成 | 清水 哲郎 | 東京大学大学院 人文社会系研究科 特任教授 | 医療 介護 | •富山県砺波市 | 3年 |
| I | 認知症高齢者の医療選択を サポートするシステムの 開発 | 成本 迅 | 京都府立医科大学 大学院 医学研究科 精神機能病態学 講師 | 医療 認知症 尺度開発 | ·京都府丹後地 域 ·京都市(上京区、 岩倉地区) | 3年 |
| I | 健康長寿を実現する住まい とコミュニティの創造 | 伊香賀俊治 | 慶應義塾大学 理工学部 教授 | 住環境 生涯学習 健康づくりICT | •高知県高岡郡 梼原町 | 3年 |
| П | 広域避難者による多居住・ 分散型ネットワーク・コミュニ ティの形成 | 佐藤 滋 | 早稲田大学理工学術院 教授/総合研究機構 都市·地域研究所 所長 | まちづくり 災害 | ·福島県(浪江町、 二本松市) | 3年 |
| п | 認知症予防のためのコミュニティの創出と効果検証 | 島田 裕之 | 国立長寿医療研究セン ター 自立支援システム 開発室 室長 | 認知症 人材育成 | •愛知県大府市 •愛知県名古屋 市 | 3年 |
| 実 | 2030年代をみすえた機能 統合型コミュニティ形成技術 | 小川 全夫 | 特定非営利活動法人 アジアン・エイジング・ ビジネスセンター 理事長 | コミュニティ デザイン | •福岡県福岡市 | 未定 |







情報発信委員会

目的: 領域内における情報共有のあり方、ならびに領域の成果を 目より広く、より効果的に社会に展開していく情報発信のあり方を検討する

| 動耳 | TE CONTRACTOR OF THE CONTRACTO | | | | |
|---------------------|--|--|--|--|--|
| 1 | 間項目 | | | | |
| 活動を実施した時期とそのプロセス・結果 | | 活動経験から言える [一般化のためのヒント] | | | |
| | 特期については単年単位([H25上]、[H25下])で記入、 時期に引き続き、質問に対応して活動内容や事実を簡潔に記載 ※PJ特有の内容で可 | A 参考にすべきこと・成功の秘訣 (悩ましかったがこのように克服・解決した等) ※活動経験以外でも参考情報があれば記入ください | B 失敗談・留意すべきこと/改善要望 (こんな失敗をしたので留意すべき。こんなサポートがあると より効率的・効果的だった等の改善要望等) | | |
| KT. | 「景】 企画策定に至る経緯と地域資源・・・企画策定に至るまでの対象地域との目 | ・ 史的背景(長期のもの)、対象地域に特徴的な資源について | | | |
| * | 城市是 | | | | |
| d | 全国策定に至る経緯 企画策定に至るまでのこれまでの経緯・対象地域との関係 | | | | |
| ı | | | | | |
| 1 | | | | | |
| Ŀ | | | | | |
| G | 地域資源 対象地域に特徴的な資源としてどのようなものが存在したか、またそれ | びとう治かしたか T | | | |
| ш | | - | | | |
| ш | | - | | | |
| _ | | to the state of th | | | |
| | 政治】 横想・企画立案~コア体制づくり・・・プロジェクトの開始に係る企画策定を | このように行うか、コアの作物つくりをとうすればいいのか | | | |
| | 開策定 | | | | |
| d | 課題数定および解決策構態の背景 社会実験を行う課題(高齢社会に関連した | もの)、および解決策の構想をどのような背景から設定したか | | | |
| ı | | | | | |
| | | | | | |
| l. | MANAGEMENT | | | | |
| ٩ | 対象地域の裁り込み 社会実験を行う対象地域をどのように発見・探索したか | | | | |
| | | | | | |
| ı | | | | | |
| 6 | ■整備書 企画を構築するにあたり事前顕音としてどのような情報を入手したか(外 | 行研究・公表情報等) | + | | |
| Γ | THE MELINIA STATE OF THE STATE | 7777 - 2011 10 77 | | | |
| ı | | | | | |
| ı | | | | | |
| = | ア体制づくり | | • | | |
| L |) コア体制機能とその組織体制 1.事業実施主体(コアメンバー)の選定と構築のブ | コセス 2コア体制はどのような組織形態をとったか(当該組織の位置づけや組織体系の構) | デブロセス等) | | |
| | | | | | |
| ľ | | | 1 | | |
| | | | | | |

ネットワーキング委員会

目的: 領域内のプロジェクト間の有機的なネットワーク、また領域を他の取り組み とのネットワークの構築を目指す

